

平成28年度

学校評価表（最終まとめ）

学校名 品川区立第四日野小学校

評価項目1 基礎学力の定着

本校の基本的な考え方 <small>(特に身に付けさせたい力、重点的な実践内容など)</small>	◇基礎・基本を確実に定着させる。特に、読解力の向上を目指す。 ◇表現の場を充実させ、思考・判断・表現力を向上させる。 ◇学習習慣を確実に定着させる。 ◇授業改善に努め、児童の学習意欲を向上させる。 (ICT活用推進、英語授業実践を含む)					
	評価指標 (成果指標)		自己評価		校区外部評価委員による評価	学校から
	評価	評定についてのコメント	自己評価についてのコメント	校区外部評価委員についての 教職員の意見	校長の態度表明	
① 各種学力調査等における国語の平均正答率を上回る児童を80%以上にする。	A	全国調査(6年生対象)、東京都調査(5年生対象)の両方で80%以上の児童が都の平均正答率を上回った。土曜学習の時間を活用して、弱点克服を図ってきた。	80%の習熟達成は、「はげみ学習」等の指導の成果が現れてきていると思う。継続して欲しい。 授業態度を見ても集中して聞いており、静かで大変良い。低学年時の指導の賜ではないだろうか。 児童個々の成長、意欲を見守りながら継続して欲しい。	学力が向上した一因として、「はげみ学習」、家庭学習等における保護者の多大なる協力がある。引き続き連携を図ってきたい。	指導における教職員と保護者の協力体制を大切にしながら、児童の学力向上を図っていく。 姿勢については継続して指導し定着を図っていく。	
② 各種学力調査等における算数の平均正答率を上回る児童を80%以上にする。	A	全国調査(6年生対象)、東京都調査(5年生対象)の両方で80%以上の児童が都の平均正答率を上回った。「はげみ学習」で基礎計算の反復練習。ステップアップ学習で個に応じた課題克服を行ってきた。	保護者対象アンケートの肯定的回答の高さは「四日野っ子のちかい」の意識、教育活動の充実努力の現れたと思う。今後も保護者に支持される学校であって欲しい。	授業態度については「四日野っ子のちかい」をもとに全学年級共通のルールで学習姿勢・生活態度の指導をしてきた。		
③ 授業態度について、保護者対象アンケートを実施。肯定的な回答を80%以上にする。	B	用具準備、聞き方、発表の仕方、言葉遣い、時間厳守のいずれも肯定的な回答が80%以上であった。その一方で、姿勢については69%と課題が残った。				

自己評価 A=よく当てはまる B=概ね当てはまる C=どちらかというと当てはまらない D=当てはまらない

評価項目2 社会性・人間性の育成

本校の基本的な考え方 <small>(特に身に付けさせたい力、重点的な実践内容など)</small>	◇『四日野っ子のちかい』をもとに、全校で一致した生活指導を推進し、社会での基本的なマナーやルールを守る態度を育てる。 ◇学級集団での関わり、学年・学校を越えた他者との関わりを充実させ、自尊感情を高めるとともに、他者を尊重する態度を身に付けさせる。 ◇年間を通じた健康教育、体力増進の取り組みを推進する。					
	評価指標 (取組指標)		自己評価		校区外部評価委員による評価	学校から
	評価	評定についてのコメント	自己評価についてのコメント	校区外部評価委員についての 教職員の意見	校長の態度表明	
① 「返事・あいさつ・よい姿勢」を重点目標とし、年間を通じて指導する。	B	校内でのあいさつ、返事は定着が進んだ。今後は地域の方、外部の方へ子どもたちから進んであいさつできるように指導を進めていく。	校内の挨拶は昨年よりスムーズに児童の積極性を感じた。校外での挨拶はやはり防犯上の難しい部分もあるが、地域の知っている方へ進んで挨拶することによって地域の目も光る。指導の継続をお願いしたい。	年3回の強化月間には「がんばりカード(評価表)」を基に家庭と協力して指導・評価を行い、定着を図ってきた。 学校全体の雰囲気として、違う学年のこともよく知っており、交流しやすい。地域との交流も多いので、児童の関心も高い。今後も継続して交流活動を行いたい。	地域の方、外部講師の方など普段校内で接することの少ない方に対して、自分からすすんで挨拶できるように指導していく。 異学年交流は子どもの社会性を育て、特に上学年児童にとっては自己肯定感を高めることにもつながる。今後も改善・充実を図っていく。	
② 自分や学級の課題を自ら考え、自分たちで解決しようとする態度を身に付けさせる。	B	児童に係活動させる際、「よりよい学級づくりのため」という目的をもたせ、主体的にかかわれるようにした。児童が創造的に活動する姿が見られた。	たてわり班遊びなどでの異学年交流で、学年単位での行動とは違った多くのことを学ぶ機会になっている。これからは是非機会を増やして欲しい。		健康・体力増進指導のさらなる充実を図るべく、次年度から児童会に健康づくり活動を行う委員会を設置し、児童による主体的な活動を取り入れていく。	
③ 異学年交流やたてわり班活動、異校種や異年齢の方々との交流を充実させる。	B	たてわり班遊びを年10回、学年間の交流活動を年3回、保育園と1年生との交流活動を年3回。低中高各ブロック間交流は随時行ってきた。	食育に関しては、児童が興味を持てるよう工夫された授業が展開されていると感じる。	養護教諭が中心となって専門的な話や実践を交えながら健康教育・食育を行っており、児童の意識が高まっている。その結果、欠席、保健室来室ともに少ない。		
④ 体育授業の充実、休み時間の外遊びの励行、保健指導、食育の展開などにより、健康な子を育成する。	B	休み時間は体を動かす遊びを推奨し、ほぼ全員が何らかの運動をしていた。 夏季水泳指導では個別指導によって着実な泳力の向上が見られた。	夏季水泳指導では大きな成果が上がっていると感じる。	夏の水泳指導では、午前中に全学年の指導を3回に分けて行い、さらに午後個別指導を行い、泳力向上を図ってきた。		

自己評価 A=よく当てはまる B=概ね当てはまる C=どちらかというと当てはまらない D=当てはまらない

評価項目3 保護者・地域との連携

本校の基本的な考え方 <small>(重点的な取組内容など)</small>	◇学校を開き、教育活動の「見える化」を促進することで、保護者・地域からの信頼を得られるようにする。さらに、教育活動や児童の姿を以て、選択される学校を目指す。 ◇行事や面談など様々な場面で、職員が自らを開き、保護者や地域との相互理解を密にできるようにしていく。					
	評価指標 (取組指標)	自己評価		校区外部評価委員による評価	学校から	
評価		評定についてのコメント	自己評価についてのコメント	校区外部評価委員についての 教職員の意見	校長の態度表明	
① 地域で(に)学ぶ授業を充実させ、児童が主体の地域との連携の充実を図る。	B	生活科、市民科を中心に、地域と連携した教育活動を計画的に行えた。	地域の行事に先生や子どもたちも参加しているようで良いことだと思います。 地域との連携は高く評価できる。卒業生の保護者など、学校に協力的な潜在的な人材の活用ができると思う。	2年生の町探検、3年生のお仕事体験は、地域のご協力のもと、充実した学習ができた。その後も商店街や地域について意欲が高まっている。地域の方々を学校にお呼びして学ぶ機会も増えてきている。	現在実施している地域や外部との学習についての情報(実施方法、人材等)を確実に引継ぎ、定着させていく。	
② 学校だより、学年だより、ホームページを工夫し、情報発信を促進する。	B	これまで月1回で発行していた各種おたよりに加えて、多くのクラスにおいて、児童の日常の様子を伝えるおたよりを発行した。	学校だよりを中心に行事の予定や様子も発信され、地域の回覧板にも挟まれて良く情報がわかる。	どのクラスも積極的にたよりに出していた。 HPも更新頻度を上げて情報を発信している。	情報発信については内容について細心の注意を払いつつ、一人でも多くの方に学校のことをより詳しく知ってもらえるように、さらに工夫していく。	
③ 家庭訪問、保護者会、個人面談を通して、相互理解を促進する。	B	保護者会、個人面談では、児童一人一人の学習到達度をまとめた「個人カルテ」を配布し学力面の課題の共通理解を図った。	ホームページなどは地域の高齢者にはなかなか見られないので紙の情報発信はまだ大切なことだと思う。	学校だより等主要なお知らせは町会を通じて地域の多くの方に配布している。		

自己評価 A=よく当てはまる B=概ね当てはまる C=どちらかというと当てはまらない D=当てはまらない

評価項目4 環境整備・美化

本校の基本的な考え方 <small>(重点的な取組内容など)</small>	◇児童が安全に過ごせるよう、常に「安全確保」の高い意識をもって、点検・改善を行う。 ◇児童の豊かな学びに資する、校内美化・校内整備・掲示物の充実に努める。					
	評価指標 (取組指標)	自己評価		校区外部評価委員による評価	学校から	
評価		評定についてのコメント	自己評価についてのコメント	校区外部評価委員についての 教職員の意見	校長の態度表明	
① 休み時間の看護当番活動や毎月の安全点検を確実に実施し、組織的に安全の確保を図る。	A	休み時間には、看護当番に加え、多くの教員が児童の様子を見守った。 校内設備の安全にも日頃から気を配り、随時、改善した。	児童の安全のための看護当番活動や校内整備は高く評価できる。 校内美化や整備が児童による自主的な活動になるとよい。	点検不備によるけがはなかった。安全に気を配り、計画的に点検を実施し、必要に応じて修繕等の対応を確実に行ってきた。	現在、主に教職員によって掲示物等、校内環境の整備が行われており、一定の成果が出ている。今後は評価委員のコメントにもあるように、児童の意識を高め、自ら校内環境整備に貢献する姿勢を育てていきたい。	
② 児童の学びの成果が表れ、相互評価の場ともなる掲示を工夫する。	B	児童相互の学び合いができるよう、定期的に更新した。	校内の掲示は美しく工夫され管理されている。 お互いの刺激にもなる作品の掲示は、いい試みだと思う。掲示方法にも各担任の工夫が感じられる。	優れた作品やノートなどを掲示することで、自分の作品も選んでもらいたいと意欲的に学習に取り組む様子が見られた。	屋上の活用については今後のCS化において、地域を巻き込んだ組織、取組にしていきたい。	
③ 屋上ガーデンやはらっぱを持続的に整え、児童の学習での活用を促進する。	C	生活科の学習、たてわり班活動等で活用したが、十分に活用できていない。	屋外の掲示物が痛んだままになっていることがあった。こまめな点検と修復を。	掲示物をはじめ、学校外周の壁面、設備の状況については目が届かないことがあった。		

自己評価 A=よく当てはまる B=概ね当てはまる C=どちらかというと当てはまらない D=当てはまらない

評価項目5 いじめ防止に関する取組み

本校の基本的な考え方		<p>◇「いじめはどの子どもにも、どの学校にも起こり得る」という前提に立ち、未然防止および発生時の迅速な対応に、全力を尽くす。</p> <p>◇すべての児童が、いじめを自分のこととして受け止め、自分たちで防止・解決しようとする力を育成する。</p> <p>◇互いを認め尊重し合う学校・学級の風土を作る。</p>			
評価指標 (取組指標)	自己評価		校区外部評価委員による評価	学校から	
	評価	評定についてのコメント	自己評価についてのコメント	校区外部評価についての 教職員の意見	校長の態度表明
① 学年ブロック会や週1回のSCを交えての職員打ち合わせなど、情報共有を常時密にし、早期発見・早期対応を行う。	B	学年ブロック会、週1回のSCを交えての職員打ち合わせに加えて、毎週金曜日に児童に関する配慮事項の報告を行う時間を新設し、共通理解を図った。	大きな問題となるような事象がないことは本当に良い状態だと思う。今後も早期発見に努めて欲しい。	職員室は、それぞれの学級での様子をいつでも話し合える雰囲気があり、つねに情報交換が行われていた。さらに職員連絡会および夕会では全教職員で共通理解してきた。	これまでのいじめ防止に関する取組を継続しつつ、さらに子どもの声に耳を傾け、見守る体制を充実させていく。
② 生活アンケート、担任による子ども面談、SCによる全員面談など、児童が気持ちを伝えられる場をできる限り確保し、早期発見に努める。	B	年3回の子ども面談(児童と担任の1対1の面談)を行い、児童理解を深めた。加えて、日常的に全教職員で協力して、児童を見守り、気が付いたことを随時、担任に伝えるようにしてきた。	アンケート以降の面談等に時間を割き、関わりを大切にしている様子が窺え努力されていると思う。個性も大切にしながら、課題を持つ児童に対して寄り添う姿勢を続けていきたい。	教職員は子どもと話す機会を多くとるよう日頃から心掛けている。 児童の話に注意深く耳を傾けている。受容・共感する姿勢を示すよう心掛けた。	保護者への啓発については、市民科授業地区公開講座、学校公開等の機会を活用して啓発していく。
③ 市民科授業を中心として、「いじめ根絶宣言」の達成に向けた指導を計画的に展開する。	B	市民科年間指導計画をもとに、発達段階に応じて、道徳心、規範意識、社会性の向上を図った。日常的に教師が徹底して「いじめを許さない姿勢」を見せ、児童に指導してきた。	「いじめを許さない姿勢」を見せるとともに、児童が辛いことがあつたら相談できる体制の強化を期待したい。	市民科授業地区公開講座への保護者の参加者数を増やしていきたい。	
④ 児童に正対し、まずは教師がそれぞれの児童を受容する姿勢を示す。	B	全教職員で共通して、児童の話に傾聴すること、違いを認めることを大切に指導にあたってきた。不適切な行動に対しては、どのように改善すべきか児童に寄り添い考えてきた。	保護者にも人権についての共通理解を図っていくとよい。		

自己評価 A=よく当てはまる B=概ね当てはまる C=どちらかというと当てはまらない D=当てはまらない

評価項目6 学校独自の特色ある教育活動

本校の基本的な考え方		<p>◇ICT機器を効果的に活用し、児童の学習意欲を高め、児童がよりよく考える授業を展開する。</p> <p>◇近隣の保育園との連携・交流を一層推進し、児童の学びの連続性を担保し、滑らかな接続が図れるようにする。</p> <p>◇学校ボランティアをさらに活用し、地域とともにある学校作りに努める。</p>			
評価指標 (取組指標)	自己評価		校区外部評価委員による評価	学校から	
	評価	評定についてのコメント	自己評価についてのコメント	校区外部評価についての 教職員の意見	校長の態度表明
① ICT機器を効果的に活用している。	B	導入から3年目となり、ICTの効果的な活用場面が明確になってきた。ICTによって児童の学習意欲を向上させ、主体性を引き出すことができた。	ICT機器を効果的に利用している点は評価できる。より深い学習に活用できるよう期待する。プログラミング学習など前進しても良いのではないが。	ICTの活用はすっかり定着している。今後はさらに活用を広げていきたい。	ICT活用、保幼小連携については本校の教育活動にすっかり定着した。今後は次期指導要領改訂を見据え深い学びにつながるよう改善していく。
② 保育園との連携活動を計画的に実施している。	B	今年度は、1年生との交流に絞って実施した。事前の打ち合わせをしっかりと行い、見通しをもって実施できた。	保幼小連携は、いずれ小中の連携にも繋がり、児童の成長の過程でスムーズな良い結果が得られると思う。少しずつでも中高学年に連携を広げていけたら良いと思う。	園児が5年生の体育の学習を見る機会があり、普段交流をしていない5年生も嬉しそうに活動していた。取り組みやすい形で交流の幅を広げることも考えていきたい。	保護者・地域ボランティアについては平成30年度からのコミュニティスクール化に向け、互恵性の高い取組になるよう運営組織、人材の確保など見直しを図っていく。
③ 保護者・地域のボランティアと連携を図って指導をすすめている。	B	学習ボランティアの方に非常に熱心に取り組んでいただいた。朝の「はげみ学習」だけでなく、家庭科のミシンの学習、市民科の茶道などでもお手伝い頂いた。	埋もれている地域人材を行事等で活用し、輪を広げていくとよい。学習ボランティアについても、適材適所で活用する場を広げていくとよい。教職員とはまた違った大人の存在が、児童にいい影響を与えることを期待する。	学習ボランティアの方が授業に入ってくさるので、ものすごく助かっている。学習面で心配な児童のサポートにまわってもらえるので良い。	

自己評価 A=よく当てはまる B=概ね当てはまる C=どちらかというと当てはまらない D=当てはまらない